

安心・安全な 水道水をお届け するために

日南市の水道事業は、大正10年以降、平成の合併にて北郷および南郷地区を給水区域としながら、約100年にわたる水道水を各家庭に届けています。このような中、人口減少や施設の老朽化、地震への備えなど、水道事業を取り巻く環境は年々厳しくなっています。水道水は、私たちの生活には欠かせないものです。今回は、将来にわたって安心・安全な水道水をお届けするための取り組みをご紹介します。



■水道事業の概要

本市が管理する水道事業は、令和2年3月末現在、上水道事業と大島簡易水道事業があります。

総人口5万2293人に対して4万9830人に給水しており、総人口に対する給水普及率は、95%となっています。水道施設としては、水道水の源となる「水源池」が21か所、水道水をつくる「浄水場」が13か所、水道水を一時的に貯めておく「配水池」が31か所あります。水道管の総延長

は、約55.5kmにも及びます。

■水道事業が抱える問題

✓水道管の老朽化

水道管の標準的な耐用年数は40年とされており、老朽化は漏水の原因となります。水道管の総延長約55.5kmのうち、令和元年度末時点において、40年を経過した水道管の延長は、約94km、全体の約17%となっています。

✓南郷地区の問題

南郷地区は、津波ハザードマップ内に一部の水道施設



水道管の老朽化による漏水

また、南郷地区については、

収入により経営しています。人口減少に伴う水道料金収入の減少は、水道事業の安定した経営が難しくなることを意味します。

本市としては、日南地区と南郷地区の水道施設一元化など、水道事業の効率化に努めています。厳しい経営状況にあります。そのため、現在、水道料

金の見直しを検討しており、10月8日の水道事業等経営審議会において、水道料金の見直しについて諮問を行いました。この審議会では、今後の財政シミュレーションや経営改善などを審議していただいております。

この審議会の内容につきましては、随時、市のホームページでお知らせしていきます。

設があるため、津波により給水ができなくなるというリスクが懸念されています。さらに、榎原地区においては、水源が表流水であるため、大雨の際、水源の水質悪化が見られます。

✓給水人口の減少

平成29年度の給水人口は、5万2332人でしたが、令和元年度は、4万9830人であり、10年後には4万2千人程度にまで減少し、それに伴い水道料金収入も減少する見込みです。

■問題を解決するために

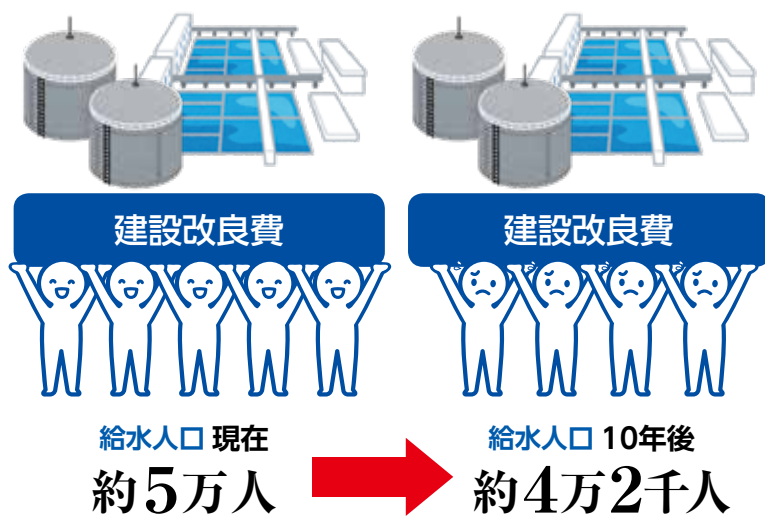
本市では、将来にわたって安心・安全な水道水をお届けするために、長期的な施設整備計画を策定し、老朽管の更新や耐震化事業などを実施しています。

耐震化事業としては、市の防災計画における重要拠点施設につながる水道管の耐震化工事を実施しています。事業完了までには約40年要する見込みです。

■水道料金見直しの検討

水道水の供給範囲や水道施設は、現状とほぼ変わらないため、水道施設に係わる年間の建設改良費は、ほぼ横ばいで推移する計画です。

しかしながら、給水人口は、減少が見込まれるため、給水人口一人当たりの建設改良費は増加していく、水道使用者の負担は増えていきます。



●お問い合わせ 水道課

- 水道施設の工事や経営に関すること 管理係、施設計画係、工務係 ☎(31)1171
- 水道料金に関すること 営業係 ☎(31)1149

